

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども発達センターたつく（保育所等訪問支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年1月23日		～	令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	136	(回答者数)	68
○従業者評価実施期間	令和7年1月23日		～	令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	7
○訪問先施設評価実施期間	令和7年2月13日		～	令和7年3月17日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	136	(回答数)	50
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・これまでの支援や連携の積み重ねにより、地域の園や学校の先生方から施設の名前や職員を知ってもらい、訪問を広く受け入れていただけています。	・訪問に関わっていただいている先生方との連絡を丁寧に行うこと、先生方からの質問には適切な内容をお返ししていくことを心がけています。	・新年度には、円滑な連携のために先生方にたつくの事業を知っていただけるよう書面や面談を活用しご説明を行います。
2	・訪問の実施に合わせ、保護者の方と面談を行いこどもの姿の共有や関わり方の提案を行っています。	・メールや電話を活用し面談日の調整を行っています。直接来所をいただき、在籍園（校）での姿だけでなく家庭での様子を踏まえ総合的に支援を考えています。	・保護者の方がより気軽に相談できるような窓口づくりとその周知を行います。メール・電話での連絡を受けつけていることを広く伝えていきます。
3	・相談支援事業所との連携や訪問支援事業以外の福祉サービス（児童発達支援・放課後等デイサービス等）を利用している場合に事業間の連携を行っています。	・サービス担当者会議だけでなく、必要時にはケース会議や電話連絡にて利用児の姿や今後の方向性について共有を行っています。また、保護者の同意を得ながら他事業所とも連携をしています。	・利用児を取り巻く関係機関と支援方向の統一を図るために、今後も連携を密にとっていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問実施前後のたつくで行った利用児への直接支援・ご家庭への支援経過の共有をより充実させていくことの必要性を感じています。	・訪問の実施期間が開く場合、連携機会が少なくなっていることが要因だと考えます。	・現在利用している訪問記録カードの内容を再検討し、先生方にとってより分かりやすい・日常の保育・教育に活かすことのできる記録作りを行います。
2	・保護者への研修や交流の機会提供が少ないです。	・お話し会や勉強会の実施が児童発達支援・放課後等デイサービスの利用に併せて設定されていることが多いため、保育所等訪問支援事業のみを利用されている場合に参加しづらくなっています。	・令和7年度は幅広い方にご参加いただけるプログラムの設定を計画しています。プログラム内容や実施の日時を2ヶ月前にはお知らせしていきます。
3	・訪問を実施する中で出てくる利用児以外のこどもの発達に関する相談も増え、地域の発達支援の拠点としての機能をより高めていく必要を感じています。	・様々なこどもが地域で暮らし、幼稚園・保育園・こども園等に在籍をしている為、課題が多面的かつ複雑になっています。先生方から発達支援の観点からのご質問や研修依頼が増えています。	・支援や相談に関する適切な情報提供を行います。また、地域の支援機能向上に向け研修や会議の機会を活用しインクルージョンを推進していきます。